

よりたくさんの人の快適な暮らしをねがって

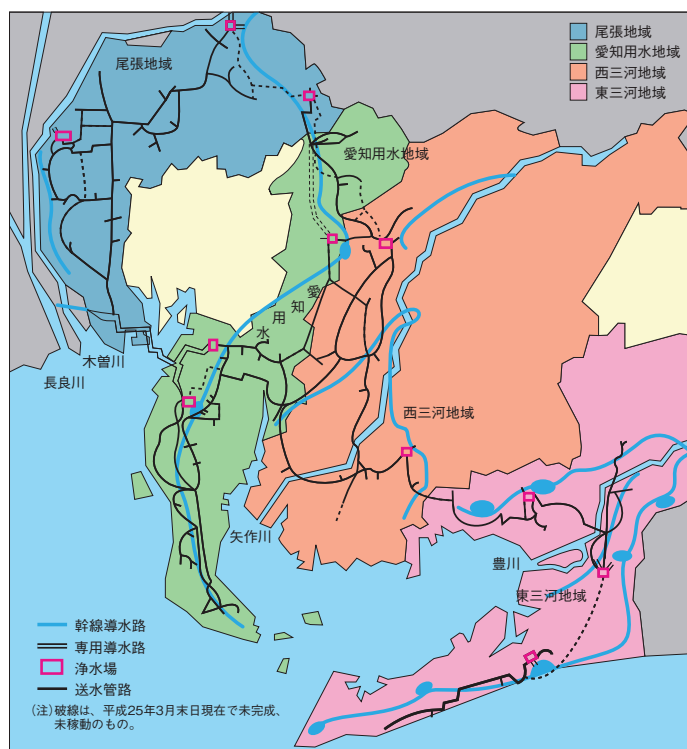
■県内に広がる水道のネットワーク

〔水道事業〕

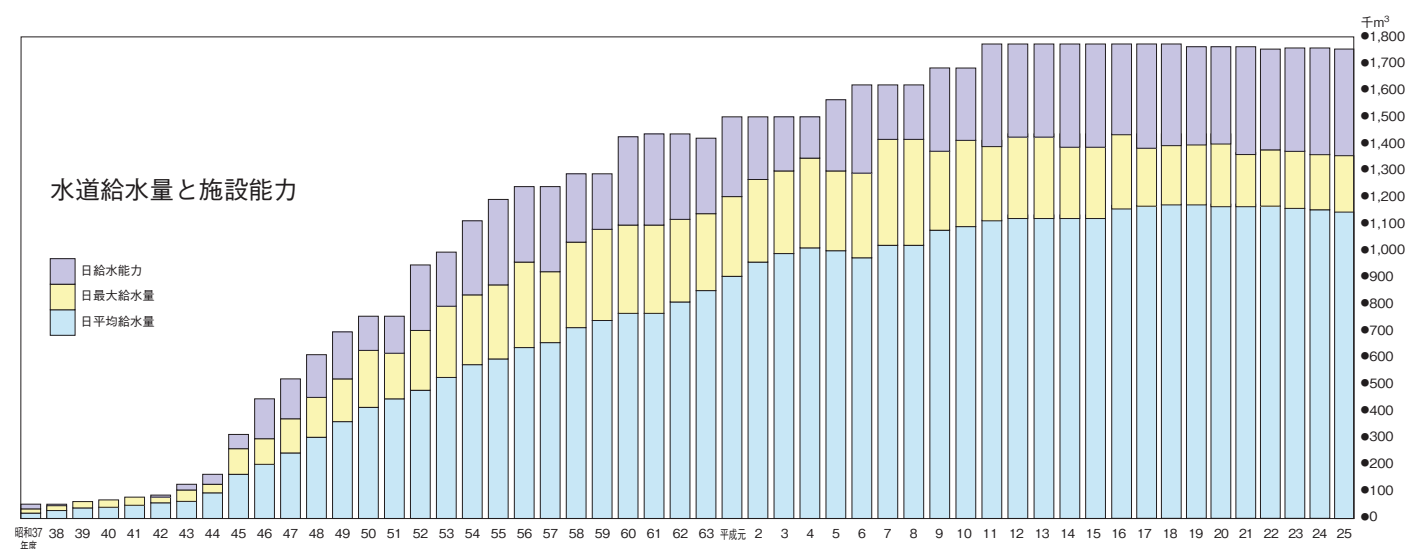
昭和37年、愛知用水を水源として、幹線水路沿いの13市町へ給水開始したのが、県営水道の始まりです。その後、水需要の増加に応えながら、水道のネットワークを広げ、今ではほぼ県内全域（名古屋市とその周辺の一部及び三河山間地域の一部を除く。）をおおうまになりました。同時に、給水量も給水開始当初、平均して1日わずか

約2万m³であったものが、平成25年度には約115万m³と、当初のおよそ60倍になっています。

愛知県民のみなさんが、いま使っておられる水のおおよそ2分の1が県営水道から供給されている水なのです。そして、今後も、県営水道とみなさんの生活とのふれあいは、ますます密接になっていきます。



水道事業計画図



■県内に脈打つ“産業の血液”

〔工業用水道事業〕

昭和36年、水道とほぼ同時期に愛知用水を水源として、名古屋市南部と名古屋南部臨海工業地帯に給水を開始したのが、県営工業用水道の始まりです。その後、東三河地域、西三河地域、尾張地域でも順次給水を始め、平成25年度には373事業所に対し1日当たり約123万m³を給水するまになりました。

これからも、工業用水は、“産業の血液”として、全国一の製造品出荷額を誇り、産業技術の中核圏域の形成を目指す愛知県の発展に重要な役割を果たしていきます。



工業用水道事業計画図

